

「目をあげて 私の助けはどこから？」

詩編80：1-19

■ 勘違い

人生の9割を勘違いで生きてると言われています。私たちは物事を今までの目線でしか見ることができません。今まで自分がされたことを通して相手を見ることしかできません。しかし、大切なことがその1割の中に隠れています。その残りの1割の目線がどこへ向くかで9割の勘違いは矯正されていくのです。信仰という教会での歩みにおいても勘違いということがあります。皆さんにとって礼拝とはどのようなものですか？なぜ礼拝が必要なのでしょう？私たちはなぜ神様の前に出る必要があるのでしょうか？

■ 詩編80：1-19

あなたがしようとしてうまくいかないことがあるでしょう。それはなぜなのか？私たちクリスチャンは問題が起きたときどう歩むべきかわかっているのです。正しく歩めば祝福を受けることも。うまくいかないときは戒めを守っていないこと。なぜうまくいかないかは、自分の犯した罪のゆえだとよくわかっています。ところが、「それでも神様は私を見捨てない」と勘違いしているのでそうは受け止めたくないのです。そのような中で正しく戻ろうとした人が行うことが今日のタイトル「目を上げて～私の助けはどこから？」です。アサフは神様の慰めはいらないと言いました。しかし、神様に祈っています。これが、クリスチャンの歩みです。神様は週を7日と定め、週の初めに神様の前に出て自らを整えて歩みだす。その道から反れたことの結果です。アサフは自分が道から反れたことがわかっているのです。しかし、その現実には押しつぶされそうになるのです。その正しい思いと、現実とそのせめぎあいの中でぐちゃぐちゃになっても歌っているのです。クリスチャンにとって怖いことは忘却ということです。主の良くしてくれたことを忘れるな。しかし、私たちは忘れてベストでない行動を選んでいくのです。ベストでない行動を選んでいっても勘違いをしています。いつか神様は助けてくださると。もちろん、神様は守りたいのです。しかし、あなたが戻ろうと思わないと神様の御手は助けられないのです。

■ 的を外す

聖書でいう罪は的を外すということです。それは週に一度戻されないと戻り切れなくなっていくのです。あなたの心の本当の心と、そうではないその心を惑わそうとする偽りの気持ちその戦いなのです。そのような時選ぶ方法が神様に目を上げるという方法なのです。皆さんは調子が悪くなるとどこを見ますか？人ですか？あなたが変われば私が変わる。私たちは誰かを変えたいのです。しかし、神様の方法はそうではないのです。旧約時代に山の上にあった幕屋は今どこにあるのでしょうか？それは私たちの心の中にあるのです。人々が見てここに神様がいらっしゃるんだと感じなければなりません。だから礼拝に来るのです。一週間たつと、あなたの心がぐすんぐすんしてくるのです。あなたも見えなくなるし周りの人も見えなくなるのです。神様はあなたを拘束しようとはしていません。あなたの人生の十分の一を私のために使いなさい。週のうち七日間自由に与えるけどその一日だけ私の前に出てきて安息しなさい。と言っているのです。それを守れば輝いていられると神様は知っているのです。あなたが教会に来る前はこのようなことを考えることがあったでしょうか？皆さんが教会に来る前、人を変えようとは思っても自分が変わらなきゃと思ったことは

あったでしょうか。いや、頭ではそうかもしれないとわかっています。だけど、でも、しかし、人が主に向くとその覆いは取り除かれる。と言われています。これはきれいごとではなくて、あなたの今の状況でよいので来なさい。と言っているのです。

■ 弱さを認める

神様の前に出てくれば今のあなたのままでよいのです。だから礼拝は来なくてはいけません。あなたの悪い状態のまま病院へ行ってください。病院へ行くのに良くなってから行く人はいないのです。あなたが上を向けない一週間の中で、いやでも1時間上を向いていなければいけない。その一時間があなたが山へ向かって目を上げるきっかけになるのです。「もう私は嫌なのです。もう恵はもらいません慰めはもらいません。神様帰ってください」という礼拝でよいのです。礼拝は神様来てくださいで良いのです。しかし、神様が離れたのではありません。あなたが離れたわけですが、そこに神様が来てくれて元の場所に戻してくれるのが礼拝です。私たちが神様に目を上げて、勘違いを捨てて、神様を求めて、それを反映させる。ありのままのあなたが今の現状を認めること。これだけでよいのです。強がらなくてよいのです。

■ 勘違いを捨て、神様を求め、反映させる

一人の人の考え方が変わるだけで、神様の前に出て本当の自分がわかるだけで多くの人の人生が変わるのです。私たちが神様の前に出て心の傷が癒されなければ治らないのです。だからアサフは神様の前に叫んだのです「私はもう耐えられません。もう嫌です。やってられません。なぜ私がこんな状態で民をリードしなければならないのですか」と歌ったのです。しかし、彼は神様の前に出ることはやめなかったのです。いかなる状況の時でも、人が主に向くならその覆いは取り除かれます。ジミーカーターはいつも人に語っています。「人が神様から離れて正しいことができると思ってはならない。自分の心を取めることができなくなった人は暴走と破壊である。」いつも皆さんの周りにあなたを制する人がいますか？

詩編121編1-8

みなさん、是非神様の前に出ることを怠らないでください。あなたの問題が起きたときには隠さず素直にそれを向けてください。神様は教会という大事な組織を与えました。これはみなさんの家族です。この中であなたがともに祈りあえるパートナーが与えられています。あなたのまっすぐな気持ちを共に神様に祈れるのが家族です。神様に向くのをやめてはいけません。そして隠す人生を歩んではいけません。私たちは良い時も悪い時も神様の前にまっすぐであるべきです。繕ってはならないそれは二心である。と神様は言っています。今日は是非あなたの覆いが取り除かれて、あなたの目が神様に向くようにご一緒に祈りたいと思います。

(要約者:澤口 建樹)

(10月2日)